

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
3						診察案内表示システム	
3	1					呼出患者一覧機能	
3	1	1				本機能は受付クラーク又は看護師が操作を行う『受付・看護師画面』と医師が操作を行う『医師画面』の2画面で構成され、待合室の表示盤と連携し、直近で呼び出す患者の番号表示と診察室への呼び込みを可能とする患者一覧機能であること。	
3	1	2				予約患者と当日受付した患者を統合し一覧を表示することができ、『受付・看護師画面』では、該当ブロック（診療科）の患者が医師毎（診察室毎）に分割表示され、『医師画面』では担当医師の患者が一覧表示されること。	
3	1	3				一覧画面上の患者を選択し、上下にドラッグすることで、診察の順番を並び替えることが可能で、診察する順番を任意に設定することができること。	
3	1	4				呼出患者一覧には以下の受付情報が表示可能であること。 （受付No・患者氏名・予約時間・受付時間・状態・検査進捗情報・プロファイル・対診コメント・受付コメント・予約枠名・入院病棟・併科受診情報・カナ氏名・性別・年齢・任意のマーク・初診再診種別）	○
3	1	5				呼出患者一覧は患者区分でソートされていること。 ①R（紹介）②L（新患）③T（他科依頼）④B,N（予約外） また、ソート条件に「現在の位置に固定」にチェックをつけると当日予約患者のソートは行われないこと。 ただし、当日患者の内、受付番号の先頭1バイトが“R”、“L”、“T”の患者に対してはソートは実施されること。「現在の位置に固定」にチェックがついていない場合は、すべての患者がソートされること。	
3	1	6				一覧上の患者を選択し、右クリックメニューを選択することにより、以下の機能が実現可能であること。 （患者基本スケジュール票印刷、状態変更、カルテを開く、指示一覧）	
3	1	7				検査部門システムとの連携による情報表示が可能であり、「検体検査」「放射線検査」「生理検査」「内視鏡検査」などが、“依頼あり”、“検査中”、“結果済み”、などをマークとして表示（表現）できる機能を有していること。また、検査中の患者を呼出しする場合は、アラート表示が可能なこと。	
3	1	8				受付患者単位に右クリックであらかじめマスタで登録したマークをつけることが可能であり、マークは2種類つけることができること。また、この設定マークの種別により呼出エリアの移動可否を制御をする事ができること。	

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
3	1	9				呼出患者一覧でのドラッグ&ドロップなど患者の移動操作歴を患者単位に時系列で表示する画面を有すること。	○
3	1	10				診察室ごとの分類で表示される一覧画面は、各ブロック毎（診療科毎）1画面に2・4診を同時に表示することが可能で、タブを切り替えることによりそれぞれの診察室を切り替えて表示することができること。	○
3	1	11				予約患者は予め医師が使用する診察室の枠に表示され、予約外患者は受付枠（医師未定枠）に表示されること。また、午前／午後／夕方など医師が時間帯により入替る場合には、時間帯をプルダウンメニューにより選択することで患者一覧を表示できること。	
3	1	12				受付枠（医師未定枠）に表示された患者はドラッグ&ドロップ操作及び右クリックメニュー操作により各診察室枠に患者の振分けができること。その際、再診予約オーダを発行し、予約枠の変更ができること。また、同様の操作で、窓口呼出枠や、保留枠に患者を移動することができること。	
3	1	13				受付画面の診察室枠または受付枠の表示幅を、ボタン操作で一時的に拡張することができること。	
3	1	14				診察室毎の当日担当医を、表示盤に連携し表示可能なこと。本情報は『担当医スケジュール設定画面』により、日毎に医師が使用する診察室を任意に設定可能で、医師が外来到着以前でも指定した時刻に自動的に医師名を表示盤に表示することが可能なこと。また、代診や特殊外来など任意の名称に変更して表示を行うことが看護師や受付職員により簡単にできること。	
3	1	15				診察室で医師が午前／午後／夕方など時間帯で入れ替わる場合は、『担当医切替機能』により、現時点での有効時間帯を指定可能なこと。	○
3	1	16				『患者検索機能』により、併科受診患者が不在の場合など、他科での呼出し状態や、診察完了状態などが検索抽出可能で一目で確認できること。	○
3	1	17				入力された患者IDの患者情報、振分情報を検索し、到着確認を実施できること。また、振分先にて移動する診察室、時間帯を選択後、移動ボタンにて移動できること。	
3	1	18				次患者呼出ボタンのクリック操作により、次の患者のカルテ画面を起動するとともに、表示盤と連携し患者の呼出がおこなえること。また、同時に診察の順番に従って、待機患者を3名程度表示盤に表示を行うこと。その場合、検査結果の状況や、ブロック（診療科）への到着有無情報を考慮し、診察可能な患者のみを判断し自動的に番号を表示できること。	
3	1	19				呼出しに対して患者の入室が無い場合、表示盤と連携し受付へ誘導する機能を有していること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
3	1	20				検査などで再診察が必要な場合、患者を一時保留などにできる機能を有していること。	○
3	1	21				併科患者等で、他科の診療科で呼出をされている患者は、重複して呼出ができないチェック機能を有していること。	
3	1	22				患者をダブルクリックすると、呼出確認画面が表示され、患者の移動やカルテを開く等、選択できること。	○
3	2					表示盤システム	
3	2	1				診察案内表示システム機能	
3	2	1	1			本システムは外来患者に診察順番等の情報提供を行なうシステムである。医療情報システムの呼出患者一覧と連動し、待合への案内や診察室への誘導を行う。	○
3	2	2				診察案内表示盤機能	
3	2	2	1			外来を受診する患者に対し、自動受付再来機により発券される受付番号票を利用し、「大型ディスプレイ（外待合）」「小型ディスプレイ（診察室個別表示）」を設置して、患者誘導情報を表示できる機能を有すること。	○
3	2	2	2			診察室単位に情報（医師名・診察中番号・診察室前（中待合）誘導番号・外待合待機番号・予約進行状況）が表示できること。	
3	2	2	3			表示番号は診察中番号・診察室前（中待合）誘導番号・外待合待機番号を各科毎に任意の人数で表示することができること。	○
3	2	2	4			予約進行状況は「60分遅れ」「45分遅れ」などの情報を自動的に算出して表示を行う。判断は、現在診察中の予約患者だけから判断するのではなく、相対的に遅れ時間を判断し、検査後再診察や、予約時間前に診察するなどのイレギュラーな運用でも、ズレが発生しないよう考慮されており、実績のある機能を有すること。また、手動であらかじめ登録されたコメント表示ができること。	○
3	2	2	5			患者の不在や検査などで窓口に患者を呼出する場合、大型ディスプレイに窓口に出す患者の番号を表示できること。	○
3	2	2	6			番号の更新時には、即時一定時間の番号拡大・点滅・チャイム音を使用し注意を促し誘導することができること。	○
3	2	2	7			視覚弱者にも見やすいデザインで、カラーユニバーサルデザイン（CUD）の認証取得実績がある表示画面を提供可能なこと。（機器構成変更による再取得は不要）	
3	2	2	8			検査、放射線、生理、内視鏡の何れかがオーダ発行されている患者の回覧画面の受付番号が「黄色」で表示できること。	
3	2	2	9			【表示盤メンテナンス機能として、以下の要件を満たすこと。】	

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
3	2	2	10			表示盤管理端末で任意に設定したインフォメーション（静止画、テロップ）の閲覧表示及び編集ができること。	○
3	2	2	11			表示画面の順番はドラッグ&ドロップでスライドショーの設定が可能なこと。	○
3	2	2	12			各表示画面に対してスライドインなどの効果を4種類以上指定できること。	
3	2	2	13			インフォメーションの内容は、背景、文字、イラスト素材が自由に組み合わせることで画面を作成することができ、ドラッグ&ドロップなどパワーポイントに類似した操作性で設定できること。	○
3	2	2	14			編集したインフォメーションは、表示盤管理端末でプレビュー表示できること。	○
3	2	2	15			インフォメーション画面作成する上で必要な壁紙画像、イラストなどが100種以上用意可能である。また、当センターでよく使用する画面がテンプレートとして提供できる。	○
3	2	2	16			診療遅延や救急患者等の臨時インフォメーションをすべての表示盤に一括して表示できること。	○
3	2	2	19			将来の診療科の構成、名称変更等に対応できること。	○
3	2	2	20			画面構成のレイアウト・文字・色彩等を変更できること。	○
3	2	2	21			表示内容は朝の診察前や昼休み等を考慮し、時間帯を指定することにより、予め設定したインフォメーション内容を表示できること。	○
3	2	2	22			インフォメーション画面を複数組み合わせることにより一つの表示パターンを構成し、スライドショーとして作成可能である。	○
3	2	2	23			表示パターンは100種類以上作成し登録することができること。	○
3	2	2	24			各ディスプレイに表示するパターンは曜日毎に表示する内容を設定できること。	○
3	2	2	25			各ディスプレイに表示するパターンは曜日毎とは別に、3ヶ月先までの特定日の表示内容を設定することが可能で、本指定がある場合はこれを優先することができること。	○
3	2	2	26			各ディスプレイの表示制御装置が正常に動作しているか、非起動状態かをモニタリングすることができること。	○

別紙1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
3	2	2	27			外部からの画像データを取り込む機能を有し、インフォメーション画面に配置可能な素材の一部として、インポートすることができること。	○
3	2	2	28			各表示制御装置における、音量の調整が、本装置から設定できること。	○
3	2	2	29			個別のインフォメーションをカレンダー登録することにより、指定日表示情報として当日表示することができること。	○
3	2	2	30			表示制御装置に対する電源の起動、終了時間を、各ディスプレイ毎に設定することにより、電源ON/OFFの自動運用ができること。	○
3	3					会計案内表示システム	
3	3	1				通信及び接続条件	
3	3	1	1			医事会計システムと会計案内表示システムをLAN接続（TCP/IPソケットインターフェース）で接続でき、現行I/F仕様を踏襲をすること。また、新規接続メーカーは医事システム接続費用を含むこと。	
3	3	1	2			計算が終了した患者情報を医事システムより受取ることができること	
3	3	2				会計表示ディスプレイ	
3	3	2	1			43インチ以上の液晶ディスプレイとすること。	
3	3	3				ディスプレイコントローラ	
3	3	3	1			表示モニタの背面に設置できる小型PCであること	
3	3	3	2			LAN接続（TCP/IPソケットインターフェース）であること	
3	3	3	3			表示モニタ本体の映像ON-OFFを制御できる機能を有すること	
3	3	4				番号札発券機	
3	3	4	1			L A N接続（TCP/IPソケットインターフェース）であること	
3	3	4	2			診察券患者ID読取り用カードリーダーと会計番号札発行用プリンターは、一体型であり、プリンターはサーマルロール式であること。	
3	3	4	3			本体内蔵のカードリーダーは自走式（診察券自動取込み）とし、患者もしくは職員の双方が安易に取り扱いできるように考慮すること	
3	3	4	4			外形寸法は、幅180mm・奥行290mm・高さ210mm以内であること	
3	3	4	5			患者ID読取り用のバーコードスキャナの取付けが可能なこと	
3	3	5				会計案内表示システムアプリケーション機能	
3	3	5	1			新しく番号が更新された場合、該当番号を複数回点滅させることができること	
3	3	5	2			新しく番号が更新された場合、チャイム音を鳴らすことができること	
3	3	5	3			画面下部に表示できるスクロールメッセージ文字については、以下の機能を有すること。 ・スクロールメッセージ文字は、1文章64文字まで当センターにて任意に作成でき、999件以上の事前登録ができること。 ・スクロールメッセージ文字は、スケジュール機能を有すること。 ・スクロールメッセージ文字は、表示モニタ単位に指定でき、表示文字色や点滅、太字、アンダーラインなどの修飾を文字単位で指定できること。	

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
3	3	5	4			下記の患者状況を、画面上で識別表示し確認できること。 ・未発券の場合 ・会計番号札を発行した場合 ・計算終了した場合 ・システム運用中に、会計番号から該当患者のIDなどの情報が画面上で確認できること。	
3	3	7				その他	
3	3	7	1			以下の保守する体制が整っていること。 ・24時間365日体制のコールセンターを設置すること。 ・連絡窓口は1箇所とすること。	
3	3	7	2			既存機器の撤去・廃棄を行うこと。	